

「演習と応用
線形代数」

寺田文行・木村宣昭著

(サイエンス社, 2000)

6.2 像と核

◦像と核◦

f を R^n から R^m への線形写像とする.

像 $\text{Im } f = \{f(x); x \in R^n\}$ は R^m の部分空間でこれを像(空間)という. f の表現行列を $A = [a_1 \ a_2 \ \dots \ a_n]$ するとき

$$\text{Im } f = L\{a_1, a_2, \dots, a_n\} \quad (a_1, a_2, \dots, a_n \text{ で生成される部分空間})$$

$$\dim(\text{Im } f) = \text{rank } A = \text{rank } [a_1 \ a_2 \ \dots \ a_n]$$

$$y \in \text{Im } f \iff \text{rank } [a_1 \ a_2 \ \dots \ a_n \ y] = \text{rank } [a_1 \ a_2 \ \dots \ a_n]$$

である. 一般に, V を R^n の部分空間とすると V の像

$$f(V) = \{f(x); x \in V\}$$

は R^m の部分空間である.

全射 $\text{Im } f = R^m$ のとき, 線形写像 f は全射であるという. このとき

$$y \in R^m \implies f(x) = y \text{ となる } x \in R^n \text{ が存在する.}$$

$$f \text{ が全射} \iff \text{rank } A = m$$

核 $\text{Ker } f = \{x \in R^n; f(x) = 0\}$ は R^n の部分空間であってこれを核(空間)という. このとき

$$\text{Ker } f = \{x; Ax = 0\} : \text{同次連立1次方程式 } Ax=0 \text{ の解空間}$$

$$\dim(\text{Ker } f) = n - \text{rank } A$$

である. 一般に, W を R^m の部分空間とすると, W の逆像

$$f^{-1}(W) = \{x \in R^n; f(x) \in W\}$$

も R^n の部分空間である.

単射 $\text{Ker } f = \{0\}$ のとき f を単射であるという. このとき

$$f(x_1) = f(x_2) \implies x_1 = x_2$$

$$f \text{ が単射} \iff \text{rank } A = n$$

次元定理 $\dim(\text{Im } f) + \dim(\text{Ker } f) = n$

◦線形写像と1次独立性◦ $x_1, x_2, \dots, x_k \in R^n$ が1次独立でも $f(x_1), f(x_2), \dots, f(x_k)$ は1次独立とは限らないから, 線形写像 f は1次独立性を保持しないが,

$$f(x_1), f(x_2), \dots, f(x_k) : 1 \text{ 次独立} \implies x_1, x_2, \dots, x_k : 1 \text{ 次独立}$$

が成り立つ.

とくに, f が単射ならば1次独立性は保持される, すなわち

$$x_1, x_2, \dots, x_k : 1 \text{ 次独立} \implies f(x_1), f(x_2), \dots, f(x_k) : 1 \text{ 次独立}$$

例題 4

像と核

$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & -2 \\ -1 & 1 & 2 & 3 \\ 2 & 1 & -1 & -3 \end{bmatrix}$ とする. R^4 から R^3 への線形写像 f を $f(x) = Ax$ で与えるとき f の $\text{Im } f$ および $\text{Ker } f$ の次元と1組の基底を求めよ.

【解答】 右の表から $\dim(\text{Im } f) = \text{rank } A = 2$. $\text{Im } f$ は A の4個の列ベクトルで生成されるから, このうちの2個の1次独立なベクトルが $\text{Im } f$ の基底である. たとえば表から A の第1列と第2列は1次独立だから $\text{Im } f$ の1組の基底として $(1, -1, 2), (0, 1, 1)$ を採ることができる.

$\text{Ker } f$ は同次連立1次方程式 $Ax = 0$ の解空間だから, 表から次元は $\dim(\text{Ker } f) = 4 - \text{rank } A = 4 - 2 = 2$ であり, 解は

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{bmatrix} = \lambda \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + \mu \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

だから $(1, -1, 1, 0), (2, -1, 0, 1)$ が $\text{Ker } f$ の1組の基底である.

A			
1	0	-1	-2
-1	1	2	3
2	1	-1	-3
1	0	-1	-2
0	1	1	1
0	1	1	1
1	0	-1	-2
0	1	1	1
0	0	0	0

問題

4.1 つぎの行列を表現行列としてもつ線形写像 f の像空間および核空間を求めよ.

(a) $\begin{bmatrix} -1 & 3 & 0 & 2 \\ 1 & 7 & 2 & 12 \\ 2 & -1 & 1 & 3 \end{bmatrix}$ (b) $\begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 1 & -1 & 1 \\ 2 & 1 & 3 \\ 1 & -1 & 0 \end{bmatrix}$ (c) $\begin{bmatrix} 1 & 3 & 2 \\ 2 & 1 & 1 \\ 3 & 2 & 3 \end{bmatrix}$

4.2 $A = \begin{bmatrix} 2 & 0 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & 2 & 0 \\ -1 & 3 & 8 & -2 \end{bmatrix}$ とする. R^4 から R^3 への線形写像を $f(x) = Ax$ で与えるとき, ベクトル $a = (1, -1, 1), b = (-2, 1, 7)$ に対し, a の逆像 $\{x \in R^4; f(x) = a\}$ および b の逆像 $\{x \in R^4; f(x) = b\}$ を求めよ.